

## 企業動向調査（本社企業）

平成13年10月～12月期現状見通し  
平成14年 1月～ 3月期 見 通 し

平成13年12月20日  
経 済 産 業 省  
経済産業政策局調査課

（ポイント）

今期（10～12月期）の業況は、製造業、非製造業ともに「悪化」超となった。また、「悪化」超幅は拡大しており、悪化の度合いが一段と強まっている。  
今期の製品在庫、雇用水準についても、引き続き製造業、非製造業ともに「過剰」超となった。  
来期（1～3月期）の業況は、製造業、非製造業ともに今期に引き続き「悪化」超となる見通しとなった。

1. 調査時点：平成13年11月中旬  
（毎年2月中旬、5月中旬、8月中旬、11月中旬の四半期ごとの調査）
2. 調査対象期間：平成13年10～12月期現状見通し及び平成14年1～3月期見通し
3. 調査対象：我が国企業のうち、平成13年3月末現在で以下の条件をすべて満たす企業。  
金融・保険業及び不動産業を除く全業種  
資本金1億円以上  
従業者50人以上  
海外現地法人を保有
4. 調査方法：対象となる本社企業に調査書類を配布し、記入・返送していただく書面調査。

今回の調査対象企業数 1732社 回答率70.3%

（注）13年1～3月期以前のDI数値は、参考として過去の産業経済動向調査の結果を表示したもので、企業動向調査の結果とは接続しない。

### 【お問い合わせ先】

調査課（本館8階西6）担当：杉浦、尾形、柿元  
（内線）2521 （直通）03-3501-1625

# 1. 業況（前期比判断：好転 - 悪化）

今期（10～12月期）の業況は、前期（7～9月期）に引き続き、製造業、非製造業ともに「悪化」超となった。また、「悪化」超幅は拡大しており、悪化の度合いが一段と強まっている。

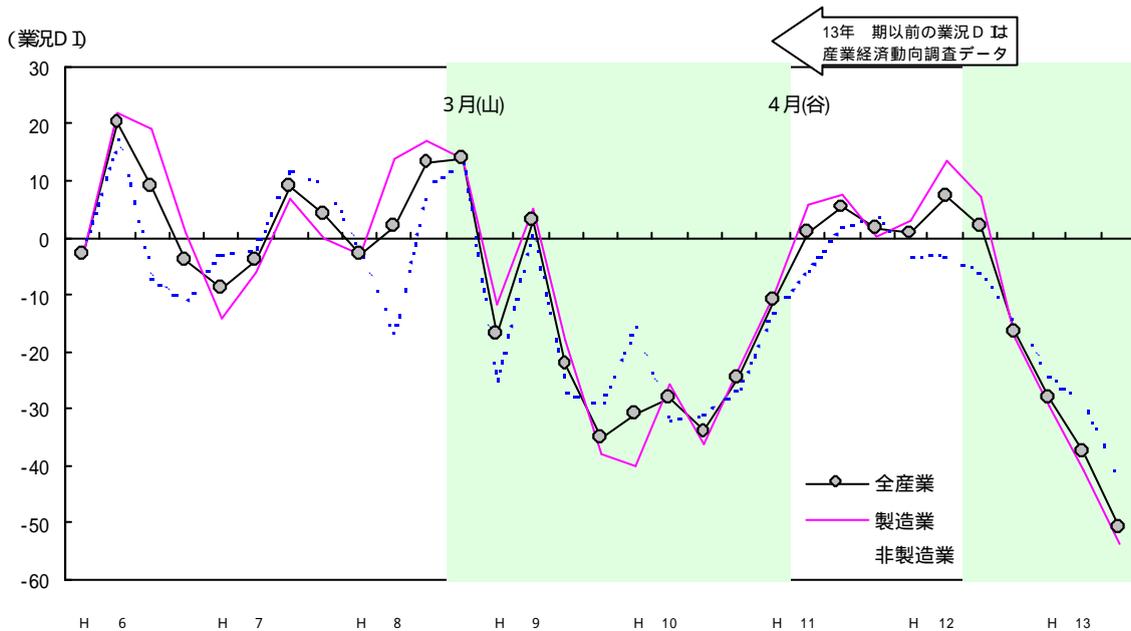
製造業では、一般機械、精密機械、電気機械等の加工組立型業種が一段と悪化している。

非製造業では、これまで堅調に推移してきた小売業が「悪化」超に転じた。来期については、製造業、非製造業ともに「悪化」超が見込まれている。

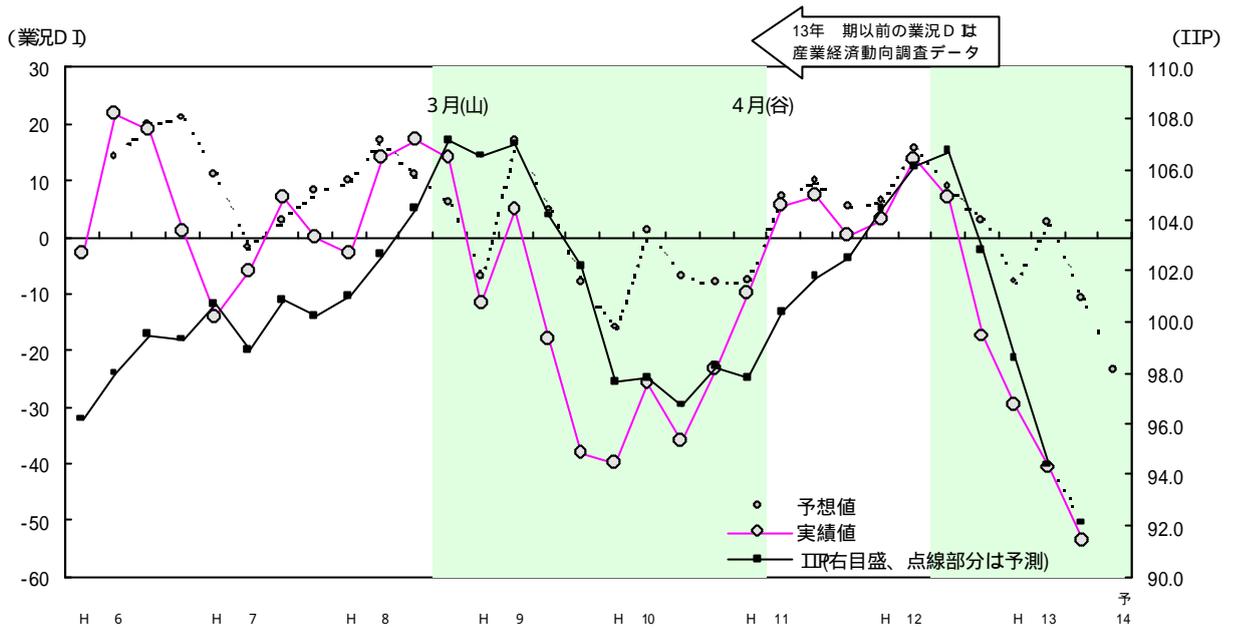
## 【業況判断】

	(12/10-12)	(13/1-3)	(13/4-6)	前期(7-9)	今期(10-12)	来期(14/1-3)
全産業	+ 2	1 7	2 8	3 8	5 1	2 3
製造業	+ 7	1 8	3 0	4 1	5 4	2 3
非製造業	6	1 5	2 4	2 9	4 2	2 1

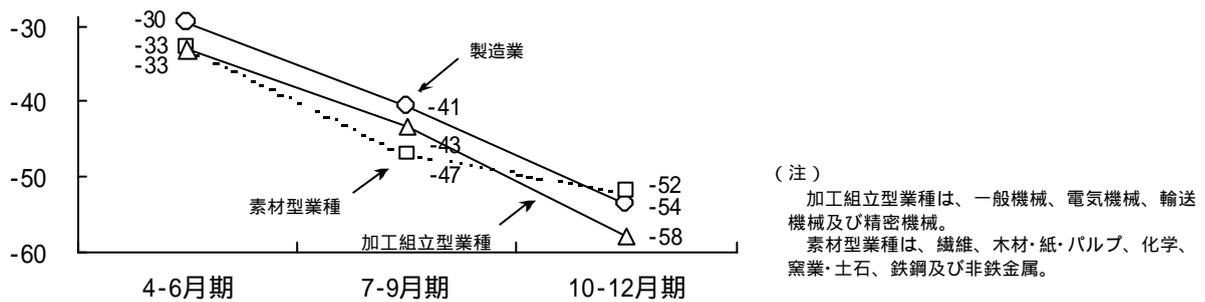
## 【業況判断DIの推移】



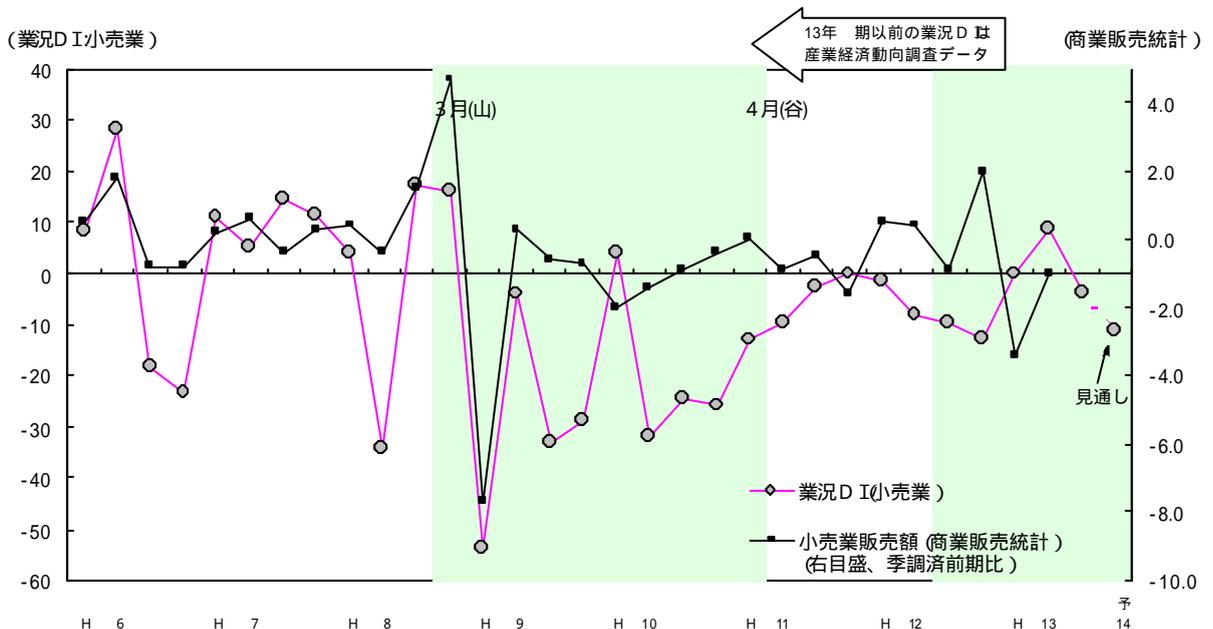
### 【製造業の業況判断DI及びIIPの推移】



### 【製造業における業況の推移】



### 【小売業の業況判断DI及び商業販売統計の推移】



## 個別主要業種の動向

木材・紙・パルプについては、今期、紙・板紙の出荷が前年割れで推移している。IT関連需要の不振等から内需が低迷している。減産効果で在庫調整は進んでいるものの、需要が冷え込んでいることから在庫の過剰感は強い。また、段ボール原紙を中心に板紙の価格が低迷していることから、業況は悪化している。

【業況判断】	(12/10-12)	(13/1-3)	(13/4-6)	前期(7-9)	今期(10-12)	来期(14/1-3)
木材・紙・パルプ	+ 2 9	1 4	3 6	4 1	4 1	4 1

化学については、今期、石油化学製品の出荷が引き続き減少している。内需が総じて低調、輸出も減少傾向が継続。原料価格の高止まりは解消されたものの、アジア市況が一段と下落基調を強めていることから、業況は一段と悪化している。

【業況判断】	(12/10-12)	(13/1-3)	(13/4-6)	前期(7-9)	今期(10-12)	来期(14/1-3)
化学	4	1 6	2 6	4 2	4 8	3 2

鉄鋼については、今期、低迷が続いている建設需要に加え、製造業向けも減少幅を拡大するなど内需が低迷している。生産調整は継続しているものの、需要が弱いことから薄板類を中心に在庫は依然高水準であり、鋼材価格も回復が遅れていることから、業況は悪化している。

【業況判断】	(12/10-12)	(13/1-3)	(13/4-6)	前期(7-9)	今期(10-12)	来期(14/1-3)
鉄鋼	+ 1 9	2 9	6 2	6 3	5 7	2 2

一般機械については、今期、工作機械、半導体製造装置の受注が大幅に減少しているほか、建設機械の内需が依然低迷していることから、業況は一段と悪化している。

【業況判断】	(12/10-12)	(13/1-3)	(13/4-6)	前期(7-9)	今期(10-12)	来期(14/1-3)
一般機械	+ 1 2	6	3 9	4 6	5 7	2 5

電気機械については、前回調査では今期は好転するとの見通しであったが、逆に悪化度合いが強まった。依然として半導体の市況は回復の目途が立たない状況である。加えて、国内における消費者向けパソコン販売の減少や携帯電話の需要が伸び悩んでいることなどから、業況は一段と悪化している。

【業況判断】	(12/10-12)	(13/1-3)	(13/4-6)	前期(7-9)	今期(10-12)	来期(14/1-3)
電気機械	+ 6	2 2	4 2	5 2	6 8	2 0

輸送機械については、今期、自動車の米国向け輸出が一時的に増加しているものの、欧州、アジア向け輸出は引き続き減少傾向であることに加え、これまで底堅く推移してきた国内販売が減少に転じていることから、業況は一段と悪化している。

【業況判断】	(12/10-12)	(13/1-3)	(13/4-6)	前期(7-9)	今期(10-12)	来期(14/1-3)
輸送機械	+ 4	+ 9	2 2	3 0	4 4	2 8

小売業については、今期は、消費者の需要の低迷に加え、スーパーや専門店等の売上単価が引き続き減少したことから、業況は悪化している。

【業況判断】

	(12/10-12)	(13/1-3)	(13/4-6)	前期(7-9)	今期(10-12)	来期(14/1-3)
小売業	10	13	0	+9	4	11

## 2. 売上高（前期比判断：増加 - 減少）

今期の売上高は、前期に引き続き、製造業、非製造業ともに「減少」超となった。また、「減少」超幅が拡大しており、売上高の減少感が強まっている。来期については、製造業、非製造業ともに「減少」超が見込まれている。

【売上高】

	(12/10-12)	(13/1-3)	(13/4-6)	前期(7-9)	今期(10-12)	来期(14/1-3)
産業全体	+2	6	23	25	40	13
製造業	+9	8	25	27	43	14
非製造業	11	2	17	19	31	10

## 3. 企業収益（前期比判断：好転 - 悪化）

今期の企業収益は、前期に引き続き、製造業、非製造業ともに「悪化」超となった。また、「悪化」超幅が拡大しており、企業収益の悪化の度合いが強まっている。

来期については、製造業、非製造業ともに「悪化」超が見込まれている。

今期における企業収益の悪化の要因としては、製造業、非製造業ともに、

売上げ数量の減少、売上げ単価の低下、原材料費の上昇、と回答した企業が多くみられた。

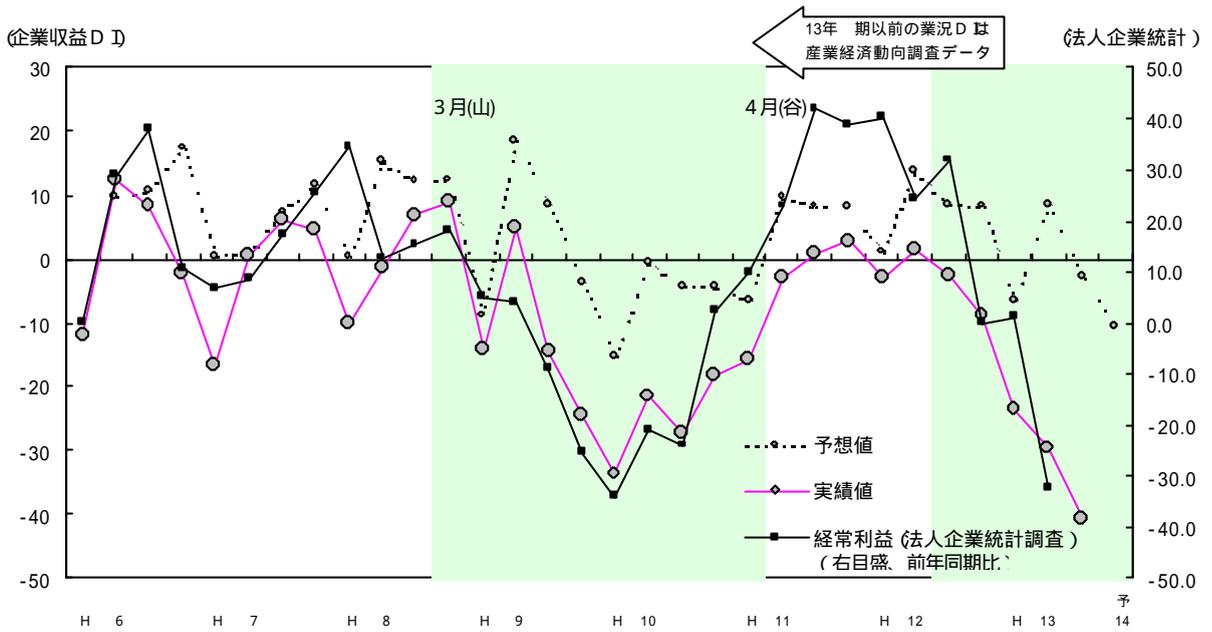
【企業収益】

	(12/10-12)	(13/1-3)	(13/4-6)	前期(7-9)	今期(10-12)	来期(14/1-3)
産業全体	3	9	24	30	41	11
製造業	+1	11	28	32	44	12
非製造業	9	6	13	22	30	6

【企業収益悪化の要因】

	売上数量の減少	売上単価の低下	人件費の上昇	原材料費の上昇	金利負担の増加	その他
製造業	73.7%	20.6%	1.1%	2.1%	0.0%	2.5%
非製造業	64.8%	23.0%	0.0%	2.5%	0.0%	9.8%

【企業収益判断DI及び法人企業統計調査による経常利益（前年同期比）の推移】



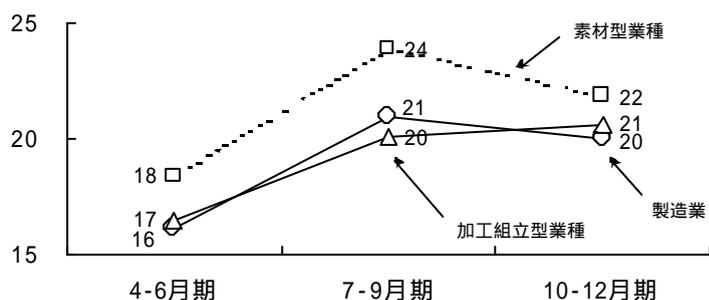
4 . 製品在庫（水準：過剰 - 不足）

製品在庫は、前期に引き続き、製造業、非製造業ともに「過剰」超となった。製造業では、「過剰」超幅が1%ポイント減少し、製品在庫に対する過剰感がわずかながら緩和している。業種別には、鉄鋼業で大幅な改善がみられる一方で、窯業・土石、精密機械、繊維、電気機械等で過剰感が増している。今期、一段と業況が悪化している加工組立業種について、業況と製品在庫の判断推移をみると、電気機械、精密機械において製品在庫の増加とともに業況の大幅な悪化がみられる。来期については、製造業、非製造業ともに「過剰」超幅が縮小し、過剰感が緩和すると見込まれる。

【製品在庫】

	(12/10-12)	(13/1-3)	(13/4-6)	前期(7-9)	今期(10-12)	来期(14/1-3)
産業全体	+ 1 8	+ 2 5	+ 1 5	+ 1 8	+ 1 8	+ 7
製造業	+ 1 8	+ 2 9	+ 1 6	+ 2 1	+ 2 0	+ 9
非製造業	+ 1 6	+ 1 7	+ 1 0	+ 9	+ 1 0	+ 3

【製造業における製品在庫の推移】

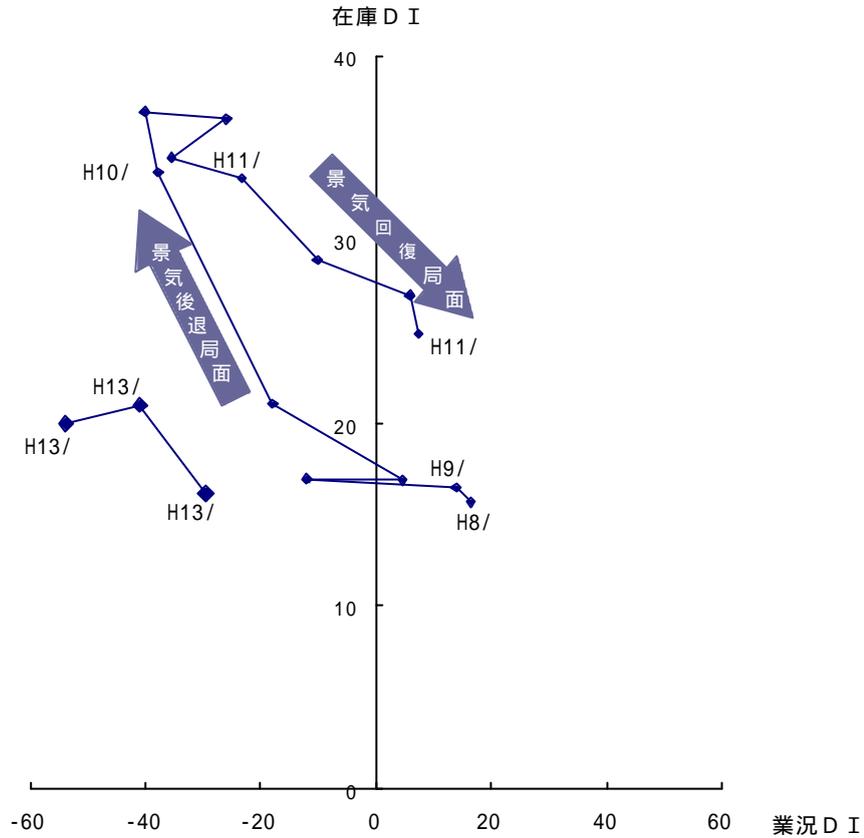


(注)

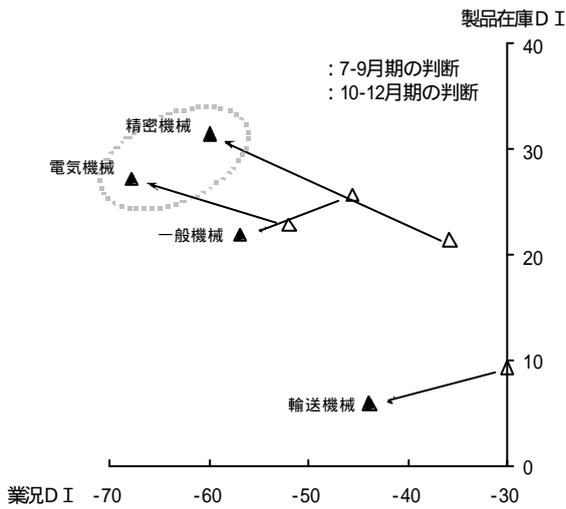
加工組立型業種は、一般機械、電気機械、輸送機械及び精密機械。  
 素材型業種は、繊維、木材・紙・パルプ、化学、窯業・土石、鉄鋼及び非鉄金属。

【製造業における業況と製品在庫の判断推移】

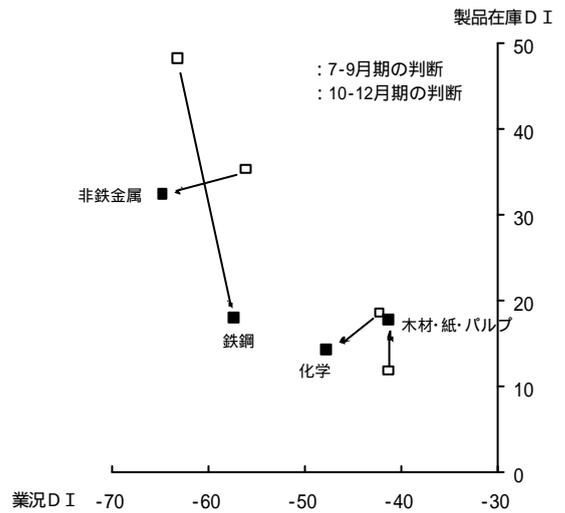
前回の景気後退局面との比較



加工組立型業種における業況と製品在庫の判断推移



(参考：素材型業種)



## 5 . 雇用状況（水準：過剰 - 不足）

雇用状況は、前期に引き続き、製造業、非製造業ともに「過剰」超となった。製造業、非製造業ともに「過剰」超幅が拡大し、雇用の過剰感が増している。特に、非鉄金属、精密機械、電気機械等の業種において顕著であった。来期についても、「過剰」超で、雇用の過剰感は続くと見込まれる。

【雇用状況】	(12/10-12)	(13/1-3)	(13/4-6)	前期(7-9)	今期(10-12)	来期(14/1-3)
産業全体	+ 2 0	+ 1 8	+ 1 8	+ 2 3	+ 3 1	+ 3 0
製造業	+ 3 0	+ 2 8	+ 2 0	+ 2 7	+ 3 4	+ 3 3
非製造業	+ 5	+ 1	+ 1 4	+ 1 1	+ 1 9	+ 2 0

## 6 . 生産設備（水準：過剰 - 不足）

生産設備は、前期に引き続き「過剰」超となった。「過剰」超幅は拡大しており、設備の過剰感が増している。来期についても「過剰」超で、設備の過剰感が続くと見込まれる。

【生産設備】	(12/10-12)	(13/1-3)	(13/4-6)	前期(7-9)	今期(10-12)	来期(14/1-3)
製造業	+ 1 8	+ 2 2	+ 1 7	+ 2 2	+ 3 0	+ 2 6